

## 愛知県の特徴と市町村合併の動向

### 【データからみる愛知県の特徴】(資料編1)

「人口」は712万3千人(平成14年10月推計人口)で、全国47都道府県中、東京都、大阪府、神奈川県に次いで第4位。全国平均は約270万人。

「財政力指数」は、0.834(11~13年度平均)で東京都に次いで2番目に高い。次に高いのは神奈川県で0.753。全国平均は0.405。

「県内総生産」は、33兆5,575億円(12年度)で東京都、大阪府に次いで全国第3位。これは、当時の為替レートによると、主要国では、オランダやスイス、アメリカではミシガン州(全米第9位)に匹敵する規模。

「昼夜間人口比率」は101.6で、東京都(122.0)、大阪府(105.9)に次いで高い方から3番目(12年国勢調査)。「県外からの流入人口」は19万1千人で、うち岐阜県からが63.4%(12万1千人)、三重県からが24.2%(4万6千人)、静岡県からが5.6%(1万1千人)となっている。一方県外への流出口は7万7千人で、岐阜県へが53.4%(4万1千人)、三重県へが18.3%(1万4千人)、静岡県へが16.7%(1万3千人)となっている。

「県内の市町村数」は87(うち市32、町村55)。15年4月1日現在(88市町村)では、全国で兵庫県と並んで多い方から10番目。うち市は多い方から6番目、町村は全国平均(53町村)に近い数となっている。

市の平均人口は19万1千人(12年国勢調査)で多い方から6番目、町村の平均人口は1万9,600人で、5番目である。また、市(政令指定都市を除く)の財政力指数は0.99、町村の財政力指数は0.76(11~13年度平均)で、市、町村とも全国平均(市0.66、町村0.33)を大きく上回る。

県内の人口に占める政令指定都市の人口の割合は30.3%(14年3月住基人口)で、政令指定都市を抱える11道府県のうち、低い方から5番目である(最も高いのが神奈川県の55.2%)。なお、中核市、特例市までを加えた特例扱いを受ける市の人口割合は53.3%で、11道府県中高い方から数えても低いほうから数えても6番目である。

## 【愛知県における市町村合併の動向】

愛知県内の市町村数の推移は以下のとおり。

\* 明治初期 約 3,000

(明治21年市制及び町村制公布)

\* 明治23年 650弱

\* 明治40年4月 267 (2市71町194村)

\* 昭和28年10月 217市町村 (13市83町121村)

(昭和28年10月町村合併促進法)

\* 昭和31年9月末 111市町村 (21市57町33村)

\* 昭和45年4月 88市町村 (東加茂郡松平町が豊田市に編入)

\* 平成15年8月20日 87市町村 (32市45町10村)

(赤羽根町が田原町に編入・市制施行)

愛知県内では、14年度から、市町村合併の取組が急速に広がり具体化している。16年3月15日現在で、市町村合併特例法に基づく「法定協議会」が8地域計30市町村、「任意協議会」が3地域11市町で設置されている(法定協構成市町村数は県内市町村数の34%、任意協を加えると47%)。

この中には、事実上協議会の廃止や協議会からの離脱を決めたところがある一方で、別の地域においては、新たな枠組みで合併協議を始めようというところもあるなど、流動的な状況である。